

富里市子ども・子育て会議（第3回）議事録

- 1 日時 平成26年3月28日（金）13時～14時50分
- 2 場所 富里市役所本庁舎3階第3会議室
- 3 出席者 荒野峰之委員、戸村香奈子委員、新谷喜之委員、大木みわ委員、内藤節子委員、山口延行委員、宮川朱実委員、渡邊薫委員、藤崎武彦委員、勝又千恵子委員、龍岡達子委員、仲田真智子委員、西澤譲一委員、高嶋理恵委員 以上14名
(欠席者) 渡辺雅子委員
(事務局) 健康福祉部長、子育て支援課長、子育て支援課担当、
学校教育課担当、教育総務課担当

4 議題

- (1) 富里市子育て座談会について
- (2) ニーズ調査の結果について
- (3) 今後のスケジュールについて

5 会議の経過

- (1) 開会

事務局：定刻となりましたので、只今より「平成25年度第3回富里市子ども・子育て会議」を開会いたします。

本日は、大変お忙しいなかお越しいただきありがとうございます。私は、司会を務めさせていただきます、子育て支援課の金杉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日、渡辺委員が欠席、また高嶋委員が諸事情により遅れて出席されることですが、富里市子ども・子育て会議条例第6条第2項により、本日の会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。それでは、龍岡会長に一言ご挨拶をいただき、そのまま以後の進行を龍岡会長にお願いしたいと存じます。会長、よろしくお願ひいたします。

会長：皆さま、こんにちは。今回3回目で、今年度としては最終の会議となります。アンケート結果等も気になるところですが、ご報告いただいたうえで、皆さまのご意見を承りたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

- (2) 議題

会長：それでは、早速、議題に入らせていただきます。本日の議題は、お手元の資料でございますとおり3件でございます。最初に、議題(1)富里市子育て座談会について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局：それでは、私から、議題(1)富里市子育て座談会についてご説明させていただきます。資料1「富里市子ども・子育て支援新制度ニーズ調査および計画策定業務 子育て座談会実施結果概要」をご覧ください。

去る平成26年2月21日に、富里市内に住む母子を対象として、子育て支援センターにお集まりいただき、「子育て座談会」を開催いたしました。当日は予想以上に盛り上がり、参考となる意見も多数出され、子育て中の母親ならではの視点で、活発な意見交換がなされました。内容についての詳細は、ちばぎん総合研究所からご説明いたします。

(ちばぎん総研より説明)

会長：「子育て座談会実施結果概要」につきまして説明がありましたが、ご意見、ご質問はございますか。

委員：前回、欠席して申し訳ございませんでした。いくつかご質問させていただきたいと思います。

座談会は、当初の計画にあったものなのか。また、今後やる機会があるのかそれとも単発なのか、というのが1点目。

座談会に参加した12名の母親が、もともと地元の方か、余所から移ってきた方かということ把握しているのか、というのが2点目。両者のニーズはかなり異なると思いますので。

アンケートおよび座談会の結果について、今後さらに分析するのか、というのが3点目。

以上3点について教えていただけますでしょうか。

事務局：1つ目の質問ですが、この会議を起ち上げたときに、事業者より「実際に子育て中のお母さんのニーズを言葉で伺った方がいいのではないか」という提案をいただいたことを踏まえ、当初の計画に入れたものです。

参加者から「座談会を定期的に開いてほしい」との声がありましたので、子育て支援課としては、今後、支援事業の1つとして、形を変えて実施していきたいと考えております。

2つ目の質問ですが、8つある小学区すべての地域の子育て支援事業に対し、居住地域やこれまで生活してきたところが異なる方々から意見を伺いたいということの説明したうえで、参加された皆さまです。もともと富里市で生活してお婿さんをもらったケース、夫婦とも市外からいらっしゃったケース、旦那さんは富里市の方で、市外からお嫁にきたケースなど、参加された方の状況はそれぞれ異なっています。

3つ目の質問ですが、座談会で多くの意見をいただいたので、もう少しまとめて、今後の計画に盛り込んでいきたいと考えております。

会 長：他にご意見等ございますか。ないようでしたら、今回の「子育て座談会」において出された市民の皆さまのご意見を踏まえ、今後の計画策定に活かして取り組んでいただければと思います。

会 長：議題(2)「ニーズ調査の結果について」でございますが、こちらにつきまして事務局より説明をお願いいたします。

事務局：続きまして、お手元の資料2「富里市子育てに関するニーズ調査報告書〈概要〉」をご覧ください。こちらの資料は、昨年12月に実施いたしましたニーズ調査の結果です。オレンジ色の表紙の「富里市子育てに関するニーズ調査報告書」から抜粋した概要版となっております。詳細につきましては、ちばぎん総合研究所からご説明いたします。

(ちばぎん総研より説明)

会 長：「富里市子ども・子育て支援ニーズ調査報告書」につきまして、説明がありました。ご意見、ご質問はございますか。

委 員：概要版3ページ「子どもの生年月日」(就学前調査)では、0歳児が30.7%と5歳児の倍以上という結果ですが、これは、このままの施設の状況では、待機児童がますます増えることが懸念されるということでしょうか。

ちばぎん総研：0～5歳児の数がほぼ同じ比率になるようにアンケートを配布しましたが、結果として、0歳児の子どもを持つお母さんからの回収率が高くなったものです。あくまでも回答者の比率であり、参考数値として見ていただければと思います。

事務局：富里市における出生数は毎年400名前後で、大きな変化はない状況です。

会 長：他にいかがでしょうか。

委 員：アンケート回収率が、就学前児童57.4%、小学生児童40.8%ですが、市民調査は19.8%です。この数字についてはどのようにお考えでしょうか。

ちばぎん総研：就学前児童と小学生児童に対するアンケートは、4割戻ってくればよいと考えていました。一方、市民調査は、他の郵送アンケート調査においても回収率は2割程度なので、平均値にとどまっていると思っております。

委 員：市民調査としては、概ね妥当な回収率であると理解してよろしいですね。もう1つ質問があります。今回のニーズ調査結果は膨大で、数字をどう読んでもいいのかわからない状況です。例えば、全国調査があって、全国平均と比べて「高い」「低い」がわかればよいのですが。

感想で構わないので、富里市の特徴を教えてくださいませんか。

ちばぎん総研：子ども・子育て関係は、全国平均と比較するよりも、地域性を捉えて計画を作っていくことが大事だと考えています。

概要版10ページ「国のワークシートに基づいた推計結果」では、富里市は0歳の子供をもつ方の約4割が保育所や幼稚園を使いたいと考えていますが、実際の利用率は7%です。このように、どうしてもニーズ量が大きく出てしまうので、いつごろ職場復帰したいか、施設を利用したいか等、真のニーズを探ることが今後の重要な作業になってくると考えております。

委員：概要版4ページにあるように、祖父母が同居または近居しているかどうかは子育てするにあたり大きな要素だと思います。私の感覚としては、富里市は全国平均よりも同居や近居が多いと思うのですが、いかがでしょうか。

ちばぎん総研：全国的な数字はありませんが、2回目の会議でお配りした「資料1」の近隣市と比較したデータを見ると、富里市は、同居の割合は高いが近居は低い、という特徴が挙げられます。

事務局：概要版5ページ「日頃のサポートの状況」について、日頃、子育てに協力してくれる人が「いずれもない」と答えた方が、就学前調査では16.5%、小学生調査でも12.4%おります。ここは大きく取り上げ、対応策を考えなければいけない部分と考えております。

会長：ご意見等ございませんか。

委員：「子育て座談会」の中では、気軽に相談できる場所が身近にあればいいなあ、という要望が多かったと思います。例えば、雨の日でも新木戸大銀杏公園に集まってみんなと相談したいと思う方、雨の日はどう過ごしたらよいか悩んでいる方もいるでしょう。

今ある施設を雨の日でも利用できるようにする、コーディネータがいて、いつでも相談できる場所とする、あるいはベイシアのような大型スーパーの一角に市とタイアップした施設をつくるなど、いろいろな状況の中で、相談できたり子どもを遊ばせたりできる場所が必要だと感じました。

委員：概要版20ページ「充実を図ってほしい市のサービス」についての回答からは、具体的なものが見えてきません。親が欲しいと思っている施設やサービスは何か、ザックリで構わないので教えていただけないでしょうか。

ちばぎん総研：概要版には載せておりませんが、報告書59ページに「親子で出かけやすく楽しめる場所」について具体的な場所を伺っており、公園のほか、山口委員の意見にもあったような雨でも遊べる場所として、児童館、図書館、公民館という意見をいただいております。

一方、保育サービスについては、アンケートの自由意見や座談会の中で、子供たちが慣れているところに預けたいという意見が多く見られました。

委員：とてもたくさん調べていただき、興味深く拝見いたしました。

富里市は、親の就労時間は7～8時間と決して長くなく、祖父母に子どもを預けることもできる、要するに、子供を預かってもらわないとどうしようもないという切実な状況ではありません。ごく少数の困っている人には

特別に対策をとる必要がありますが、大きな流れとして、富里市はそういう環境だと感じます。

そのような中、子どもを預けるとしたら、保育園よりも幼稚園がいいと考えている親が多いという調査結果が出ました。親の意識が幼稚園に傾いているのはなぜなのか、認定こども園の認識が低く、その分、幼稚園を希望する方が増えたのか、そのあたりについてわかりますか。

子育て支援にあたっては、すでにある施設やシステムをもっと利用していくという方向と、ないものを作るという方向があると思います。すでにある施設やシステムが、周知されていないために使われていないのであれば広報が必要ですし、使い勝手が悪いのであればもっと便利になるように変えていく必要があります。

また、概要版21ページ「重点施策の満足度と重要度」において、重要なのに満足していないのは「子育て」に関するよりも「住宅環境」に関することが多く見られます。住宅環境の整備等は、子育て支援とはまた別の問題ですよ。

子育て支援というと、子どもを自由に遊ばせるような環境整備等を考えてしまいますが、概要版14ページ「放課後に過ごさせたい場所」には、「塾」とか「習い事」という回答が多く見られます。親は、幼稚園のように早い時期から習い事をさせたい、というイメージを持っているのでしょうか。

調査をやっていて、今、申し上げた点についてどのように感じましたか。

ちばぎん総研：概要版6ページ「母親の就労状況」を見ると、フルタイムで働いているお母さんは3割程度で、パートやアルバイトの方が多く、保育園に預けなければならないという人が少ないということが特徴の1つです。

また、富里市には料金が手ごろな公立の幼稚園があることも特徴です。

働き方、子供に受けさせたい教育、料金的な部分、これらを総合的に考えられるようになって、幼稚園の意向が出ているのではないかと考えられます。

委員：保育園は、内容的には幼稚園にかなり接近しているのですが、そのことはあまり理解されていないのかもしれないですね。もっと宣伝する必要があると思います。

委員：日吉台では、幼稚園に行かせたいという親の志向が強いのですが、だからといって、必ずしも日吉台幼稚園に入るわけではありません。成田市の幼稚園から日吉台にバスが5つほど来ており、園児を送迎しています。つまり、富里市内の子どもが、すべて富里市内の幼稚園に収まっているわけではないのです。

富里市は、市庁舎を中心にして南部の施設を考えてしまいがちですが、北部の子育て支援施設を充実させていかないと、ますます成田市の幼稚園に預けたいという志向が強くなるという気がします。

事務局：以前、「次世代育成支援行動計画」を作成したときに、仕事と子育ての両立に関して47%の方が「預けるところがあれば就労したい、仕事に戻りたい」と回答しています。それをもとに、ファミリーサポートセンターや学童保育など、幼稚園から小学校に上がったときの預かりを中心に整備してきました。先ほどご意見をいただいた認定こども園の認識の低さについては、私たちの広報が不足していることもあると思っております。

幼稚園を希望している親御さんは、幼稚園教育をしっかり受けることができ、しかも預かってくれる時間を約束できるということを望んでいることが伺えます。一方、仕事を辞めて子育てしている方も多くいますが、子育てについて相談する人がいない、とか、親と同居しているが相談はできないという声も聞かれます。

富里市では、年間1万人が支援センターを利用していますが、1度に参加できる人数は10～15人と少ないため、利用者は限られます。現在の支援センターは保育園に併設する小規模なものなので、利用希望者が多い状況を踏まえ、今後どうするか考えなければならないと感じています。

まちづくりについては、「次世代育成支援行動計画」の中に、交通形態、道路状況、公園設備等の目標設定をしていますが、まだまだ目標に届かない部分もあります。来年度は計画の最終年度となっており、再度10年計画を策定しますので、その中で見直していく必要があると考えます。

会長：他にいかがでしょうか。

委員：アンケート回収の偏りについては、幼稚園を利用していたり家庭にいたりして比較的時間のある方からの回答が多く、保育園を利用している方は、多忙でアンケートを回答する時間がなかった、とは考えられないでしょうか。それと、もう1つお伺いしたいことがあります。報告書25ページ「保育事業を利用していない理由」のうち、「利用したいが経済的な利用で事業を利用できない」という中には貧困家庭等も含まれているのでしょうか。

ちばぎん総研：最初のご質問ですが、概要版6ページ「母親の就労状況」で、「以前は就労していたが現在は就労していない」という方々の比率が一番高いことから、幼稚園の方々の意向が若干強く出ているということは考えられます。2番目の質問については、国の調査表をもとにアンケートを作っており、「経済的な理由」というニュアンスは幅広く捉えられています。お金をかけて預けるなら自分で見るという人もいれば、本当に金銭的に困っていて預けられない人もいると思いますが、これ以上掘り下げていないので分かりかねます。

委員：幼稚園は、延長保育でも16:30に終わってしまうので、中途半場で使えないという声を聞きます。元気な高齢者との交流を通じた地域の子育てをサポートする活動をしています。地元の子が1～2人と少ないのも問題です。学童クラブも、もう少し早めに開けてほしいという要望があります。開設当

初は、学童クラブの利用者は少なかったのですが、だんだん需要は増えていきます。若い人たちが、賃金が安く、共働きしなければならない中、ニーズが増えてきているのではないかと感じています。

委員：富里市として、就学前児童の保護者の就労状況は把握していますか。

事務局：就学前のお子さんを持つ家庭では、父親が主となって就労しています。母親は、以前は働いていたが、出産後に元の職場に戻れない、あるいは正職につけないという状況であり、子どもを幼稚園や保育園に預けている間にパートをしている家庭が1番多くなっています。

委員：標本数1,978人のうち、主婦が何%、パートが何%というデータを持っていますか。その数字があれば、先ほどの「回答比率に偏りが見られるのでは」という質問についても、わかりやすくなると思います。

事務局：ニーズ調査とは別に、公立の幼稚園や保育園に通われている親御さんのデータはありますが、それ以外は調査する機会がありませんので、持っておりません。もっとも、国勢調査まで調べればお示しできるかと思いますが。

委員：国全体としては、保育園と幼稚園の両方の良さをとり、認定こども園という形で進めていこうという方向性も出ていますが、総合こども園法案が廃案になったり、国の制度設計で揉めたりと、非常にわかりにくい状況です。概要版7ページ「利用したい教育・保育事業」として、認定こども園も20.7%と結構大きい数字で出ていますが、富里市の認定こども園についての現在の状況と今後の検討の方向について教えていただけますか。

事務局：認定こども園については、今回のニーズ調査結果を踏まえた中で検討し、方向性を出していく予定です。

ただ、認定こども園があまり認知されていない中で、これだけの数字が出ているのは、幼稚園を希望しているが、預かり保育の充実も考慮すると認定こども園が望ましいと考える親御さんが多いのではないかと考えられます。親御さんの選択肢を広げるためにも、今後、認定こども園について考えていかなければならないと思います。

委員：今のところ、富里市内には認定こども園はないですね。そのような中、国も「幼保連携型認定こども園保育要領」を文科省・厚労省が一緒になって検討しており、間もなく策定されるという動きがありますので、ぜひ教育委員会とともにフォローしていただければと思います。

委員：幼稚園の現場をやっていると、早めにあるいは遅くまで子どもを預かることができたらと思いますが、人員不足や体力面でできない部分があります。せっかく、幼稚園と保育園、文科省と厚生省が一緒になってやっていこうという流れなので、私立と公立も一体となって、時間的な制約を相互にカバーするような子育て支援を考えていけたらいいなと思います。

事務局：来年度の「子ども・子育て会議」では、4月に幼稚園と保育園の事業者の方

に対してニーズ調査を実施します。各園の意向を十分把握した中で、子育て支援体制についてまとめていくので、そのときにもご意見をお聞かせいただければと思います。

会 長：他にいかがですか。

委 員：私は、5歳と7歳の2人の息子を持っています。子供がわがママを言って頭がいっぱいになるときに助けが欲しいのですが、夫や母親同士だと「いいんじゃない、大丈夫だよ」といったような意見になりがちなので、保育士などのプロに相談し、プロの意見をちゃんと聞くことが大事だと思います。私は、福祉センター主催の「ことばの教室」に子どもを入れてから、教育に対して前向きに考えることができるようになったのですが、そういう施設を知らない母親もいっぱいいると思います。そのような施設を敬遠する母親同士が集まっているのを見かけたこともあります。正しく理解してもらうことができれば、もっと子育て支援がしやすくなると思います。

事務局：今後、「子ども・子育て計画」を策定するうえで、只今のご意見を踏まえ、いつでも気軽に相談できる子育て環境の整備について、支援策を策定していきたいと思います。

会 長：他にいかがでしょうか。

いろいろなご意見や問題点が出ましたが、これだけの情報量ですので、子育てを支援していくうえで一番必要なニーズは何か、詳しく分析していただき、また、大木委員の言われたように、あるものは十分活用し、ないものは作っていくことについても検討していただければと思います。

座談会では、相談する場所、子どもを遊ばせる場所が欲しいという意見が多かったと思いますが、逆に言えば、これが富里市の特徴なのかなと感じた次第です。

また、子育てのサポートがないという方は一体どうしているのかという不安も残るので、その点も含め、今後のサービスの確保方策の検討を進めていきたいと思います。

会 長：それでは次の議題に進みたいと思います。

議題(3)「今後のスケジュールについて」でございます。こちらは事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

会 長：「今後のスケジュールについて」事務局からご説明がありましたが、ご意見、ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

只今説明がありましたとおり、平成26年度につきましては、計5回の会議

が予定されております。今後、アンケートや座談会、皆さまのご意見を含め、さらなる検討をしていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。事務局は、進捗状況等について、都度ご報告をお願いいたします。以上で、本日の議題すべてが終了いたしましたので、これにて議事を終了し、事務局にお返しします。

(3) その他

事務局：会長ありがとうございました。

前回の会議で委員の皆さまからご要望のありました、ほかの地域での取り組み事例について、千葉県松戸市、東京都三鷹市、新潟県聖籠町の資料をお配りしておりますので、ご紹介させていただきます。

(事務局より説明)

(4) 閉会

事務局：長い時間にわたってお疲れ様でございました。以上をもちまして、「第3回富里市子ども・子育て会議」を終了とさせていただきます。

次回の会議は、ゴールデンウィーク明けを予定しております。日程等詳細につきましては後日連絡いたしますので、ご協力の程よろしくをお願いいたします。本日はありがとうございました。

以 上